

東海地震発生！その時あなたは…

自分の命をまず守る！！

静岡県内に甚大な被害をもたらすと想定され、過去100〜150年周期で発生している東海地震は、マグニチュード8クラスの大地震で、下田市内ではほぼ全域で立っていることが困難となる程度の震度6弱の揺れが続き、稲生沢川河口流域では液状化、10〜15分後には、津波の第一波が襲来し、場所によっては最大5mになることが予想されています。一瞬にして、多くの尊い命を奪い、築いてきたまちをがれきにしてしまう大地震。今、この瞬間に地震が発生したら、あなたはどうしますか。

問合せ先：市民課防災係
☎22-2215

緊急地震速報とは？

地震発生までの数秒を有効活用

平成19年10月1日から提供されている緊急地震速報とは、
①地震の発生した直後に、
②震源に近い地震計でとらえた観測データ（P波：初期微動）を解析して、
③震源や地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定し、
④震源からある程度離れた地域に対し、強い揺れ（S波：主要動）の到着時刻や震度を予測し、可能な限り早く皆さんに知らせる情報です。

この情報は、最大震度5弱以上と推定した時に、気象庁から発表され、強い揺れ（震度4以上）の対象地域名がテレビ、ラジオなどで提供されます。

技術的限界

緊急地震速報を適切に利用すれば、自分や家族の命を守ることができるかもしれません。緊急地震速報は、地震を予測するのではなく、発生している地震に対して情報を発信するものです。震源の近い地域では、緊急地震速報が間に合わない場合があります。

地震に対してどのような備えをすればいいの？

非常持出品の準備

いざという時、すぐに持ち出せる場所に一つにまとめて保管しておきましょう。非常持出品の家族構成によっても変わってきます。男性で15kg、女性で10kgが目安です。家族で話し合い、必要なものをそろえましょう。

食料・飲料の備蓄

各家庭で7日間程度は生活ができるように、食料、飲料水の備蓄をしましょう。食料は調理不要の非常食3日分を含む7日分。飲料水は、1人当たり1日3リットルの水を3日分備蓄するようにし、日常使用しながら順次新しいものに取り換えていきましょう。

家具の転倒防止

本棚やタンスなどの家具は転倒しないよう、L字型金具などでしっかりと留め、高いところに物を置かないようにしましょう。また、寝ている時に棚や上に置いたものなどが落ちてきたりしないよう、家具の配置を工夫しましょう。

住宅の耐震性

最近の大地震で亡くなった方のほとんどが住宅の倒壊が原因の圧死であると推定されています。わが家の耐震性を点検し、補強工事を施すなど、地震に強い家にしていきましょう。耐震補強を行う場合には、市の助成制度があります。詳しくは4ページをご覧ください。



大きな地震が発生したらどうすればいいの？

一瞬の判断が生死を分ける状況で、冷静に対応するのは難しいものです。地震が起きても「あわてず落ち着いて」行動するためのパターンを覚えておきましょう。

地震発生時

- ・自分の身を守る（机の下などへもぐる。家具や落下物に注意する。）
 - ・脱出口を確保する（ドアや窓を開ける。）
 - ・素早く火の始末
- 何よりも大切なものは命。揺れが激しいときは無理をせずおさまってから行動してください。

発生から1〜2分

揺れがおさまったら次の行動をします。

火元の確認

- ・家族の安全確認
- ・靴を履く（ガラスなどの破片から足を守る。）
- ・非常持出品を用意する

津波やがけ崩れの危険が予想される地域はすぐに避難してください。

発生から3分

- ・隣近所の安全確認（特にひとり暮らしの高齢者などに声をかけて安否の確認をしてください。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火しましょう。）
- ・余震に注意（大きな地震の後には余震が発生する恐れがあります。）

発生から5〜10分後

ラジオなどで情報収集（間

違った情報に惑わされないようにしましょう。）

・子どもを迎えに！（自宅を離れるときは行先メモを目立つ所に貼って外出しましょう。また、ガスの元栓を閉め電気のブレーカーを切りましょう。）
家屋倒壊の恐れがある時には非難しましょう。

発生から10分〜数時間後

- ・みんなで消火活動（隣近所で協力して消火や救出活動をしてください。）
- ・消防署などへ連絡を（無理な消火や救出活動は危険です。難しいときは、無理をせず消防署へ連絡してください。）
- ・簡単な手当ては自分で行う
- ・生活必需品は備蓄でまかなう（災害発生から3日間は、外部からの応援は期待できません。）
- ・災害情報・被害情報の収集（テレビ、ラジオなどから公的な情報を収集してください。大きな災害が発生したときには、デマやうわさが広まると言われています。）
- ・壊れた家には入らない。

・避難所などで生活を送る場合、みんなで協力し合って集団生活をする。

「災害用伝言ダイヤル171」

災害用伝言ダイヤルは、災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

伝言の録音方法

①⑦①にダイヤルする

ガイダンスが流れます

録音の場合 ①

ガイダンスが流れます

被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の番号を市外局番からダイヤルしてください。

「災害用伝言ダイヤル171」を体験できます。

いざという時のために、利用方法を家族で確認しておきましょう。（ご利用には、通話料がかかります）

【体験利用可能日】 ○毎月1日 00:00~24:00、○8月30日9:00~9月5日17:00、○1月1日00:00~1月3日24:00、○1月15日9:00~1月21日17:00

伝言の再生方法

①⑦①にダイヤルする

ガイダンスが流れます

再生の場合 ②

ガイダンスが流れます

非常持出品のチェックリスト

- 貴重品（現金・通帳・印鑑など）
- 食料（乾パン類など）
- 携帯ラジオ
- 緊急セット（包帯、三角巾、脱脂綿、消毒液など）
- 缶切り、ポリ袋、トイレトーパー、雨具、ナイフ
- 衣類（下着、セーターやジャンパー類）
- 飲料水（1日1人3リットル）3日分程度
- 懐中電灯、予備電池
- マッチやライター、ろうそくなど
- 防災ずきんかヘルメット、軍手、タオルなど
- 粉ミルク、ほ乳瓶、紙おむつ
- ちり紙、歯磨きセット